
ロングモントでの発見

～教育制度の違い～



諏訪清陵高等学校附属中学校 3年 牛山まりあ

発表の流れ

- 1.はじめに
- 2.なぜ教育制度に目を付けたか
- 3.ロングモントの教育制度
- 4.日本との比較
- 5.私が思ったこと、感じたこと
- 6.まとめ・感想
- 7.おまけ



はじめに

ロングモントで頑張りがかったこと

- ・ インターネットではわからない、
実際の外国について学ぶこと
- ・ 日本との違いを見つけること



はじめに

日本とアメリカの違い

- 生活での違い
- 食文化の違い
- 時間意識の違い
- 人々のフレンドリーさ
- 教育制度の違い



なぜ教育制度に目をつけたか

- 違いが明確に表れていたため、興味を持った
- 外国について知ることで、日本の教育制度がどのようなものなのか考えることができる
- 自分自身の今後に活かせるのではないかと考えた



ロングモントの教育制度

アメリカ全体の特徴



義務教育

アメリカでは幼稚園年長から高校3年生までの13年間は義務教育となっている。「K-12」と呼ばれる。

Skyline High Schoolでの取り組み



学びの範囲

大学の基礎を教える先生がおり、高校生の間に大学の単位を2年分取得することができる。



地域全体での学び

イノベーションセンターとつながりがあり、将来にも活かせる専門的な授業を選択することができる。

日本との比較



	義務教育	入試(高校)	授業選択(高校)
日本	小学1年生～中学3年生 9年間	義務教育ではないため、 自分が行きたい高校を受験 する。	主に学年制。選択の場面が 比較的少ない。
アメリカ	幼稚園年長～高校3年生 13年間	義務教育の仕組みにより、 日本のような受験はない。 住んでいる場所の高校に行 くことが一般的。	主に単位制。幅広い選択科 目が提供され、自分に必要 な授業を自主選択すること が多い。

私が思ったこと、感じたこと

日本の教育

- ・多くの生徒に基礎的な学習が高いレベルで身に付く
- ・平等な教育
- ・将来について考える場面が少ない

アメリカの教育

- ・将来について具体的なイメージを持つ必要がある
- ・一人一人が自分と向き合う場面が多い
- ・個人差が出やすい



まとめ・感想

その国が何を重要視しているかが、教育制度の特徴として表れている。

日本…平等で安定した教育に力を入れている。

アメリカ…個人の将来にフォーカスした教育に力を入れている。

共通点として、どちらも生徒の成長を大事にしている。

必ずメリット・デメリットは存在し、どちらが良い悪いと決めつけることはできない。しかし、両方の良いところを自分自身で吸収することはできる。私はロングモントの教育制度をきっかけに、将来についてイメージしながらの学習の大切さを学んだ。

おまけ



ロングモントの子と話して分かったこと

	ランチ(高校)	アルバイト(高校)
日本	お弁当中心。 学食(有料)がある学校も。	学校による。 禁止の学校も多い。
アメリカ	お弁当の人もあるが、学食もある。 基本的には有料だが、無償で提供してくれる場合も。	社会勉強として考えられることが多い。 大学の費用を自身で捻出するためにする人が多い。

実際に、私が受け入れた子は交流事業に参加する費用を自分で準備していた。



ご清聴ありがとうございました

Thank you for listening

